

方針と重点	市の施策	学校の目標	教育目標	資質・能力	育てたい	との関わり	基本施策	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点 【児ア:児童アンケート12月、CRT:標準学力検査12月、 保ア:保護者アンケート1月、職ア:職員アンケート1月】
方針と重点 重点・挑戦し続けるたくましさの育成 拓くための資質・能力を育む	①②③④ 深い学びを体験できる授業への挑戦	豊かな心でたくましくやりぬく子 かしこく・やさしく・たくましく	豊かな心でたくましくやりぬく子 かしこく・やさしく・たくましく	育てたい	育てたい	との関わり	基本施策	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点 【児ア:児童アンケート12月、CRT:標準学力検査12月、 保ア:保護者アンケート1月、職ア:職員アンケート1月】
								①	1)「授業が楽しい」80%以上をめざす	A	○児童の意識を大切にした導入を工夫するなど、児童主体の授業づくりに努めることができた。【児ア「授業が楽しい」91%】
								①	2)最後まで見通しをもって課題に取り組める導入を行う(導入インパクト)	B	○授業で学んだことを次の学習や生活に活かそうとする姿勢が育ってきた。【児ア「学んだことを活かしている」91%】
								①	3)学びを深める学習活動を工夫する(個別最適な学び・協働的な学び)	A	○積極的にICT機器を活用することで、個別最適な学びを推進することができた。【CRT6年算数、全国比+4(R5年全国比-3)】
								①	4)ICT機器の効果的な活用方法を工夫し、実践していく	B	○全校研究授業や公開授業などを通して、職員間で学び合うことができた。【全職員が翌日の授業からの具体的実践について明確にした】
								④	5)自分の専門教科を中心とした研究で、実践を広く伝達できるように努める	A	□目的意識や相手意識を明確にした「話す・聞く力」の育成にさらに取り組む必要がある。【CRT6年国語、全国比-8】
								①	1)学びの基本となる話す・聞くの学習姿勢を追求し続ける	B	○□「わくわくび学習」を通して、家庭学習で興味のあることに取り組めるようになってきたが、それが普段の家庭学習の取り組みに十分つながっていない。【児ア「わくわくび学習は楽しい」89%・保ア「家庭学習に進んで取り組む」72%】
								①	1)「めあてを決めて取り組む家庭学習」等の実施により、自主的に行う学習を推進する(保護者評価80%以上をめざす)	B	○□各学年で「ふるさと学習」に取り組み、国府について学びを進めてきた。さらに児童主体で地域を知り地域に貢献できるようなカリキュラムの見直しが必要である。【保ア「ふるさと国府に魅力を感じている」67%】
									1)地域の自然、歴史、文化、人材の一層の活用を図るなどして、国府の魅力を感じ、未来を描くことができるようにする	A	
								③	2)郷土教育に関わる指導計画を実践検証する	B	
								②	1)学級目標の具現化を意識した取組を行い、各期ごとに確認する	A	○児童会や学級目標の達成に向けて、地道な取り組みを積み上げることができている。【児ア「学校は楽しい」93%】
								②	2)毎日終わりの会でお互いの活動や頑張りを認め合う場を設定する(すべての学級で行う)	A	○児童同士のよさ見つけや教職員による価値づけを年間通して継続的に行うことで、自己肯定感が高まりつつある。【児ア「自分には良い所がある」90%・保ア「良さがあると感じている」85%】
								②	3)各委員会のスローガンを踏まえ、当番的活動だけでなく創造的な活動も実施し、学校生活の向上を図る	B	□仲間とアイデアを出し合って、創造的な活動に取り組もうとする姿勢を今後も大切に支援・指導に努める。
								②	4)学級では、一人一役の役割に責任をもち、やり切れるように工夫する	A	○年間を通じた人権教育の取り組みで、違いを認め合おうとする姿勢が育ちつつある。【児ア「仲間の良い所を見つけれれた」91%】
								②	1)互いの違いについて認め合える意識を向上させ、個々が尊重される集団づくりを行っていく	B	□「いつでも」「誰に対しても」という点であいさつする意識はたかまりつつある。【児ア94%・保ア80%・職ア63%】
								②	1)委員会でのあいさつ活動など年間を通した啓発を行う	B	
								②	1)計画的な支援員等の配置や日常的に児童、保護者との懇談を行う	A	
								①	1)眠育、健康診断、食育、歯磨き指導等の健康教育を充実させる	A	○□自分の健康に関心を持ち、規則正しい生活を心がける児童が多いが昨年より減少傾向にある。【児ア「規則正しい生活ができている」88%】
								④	1)自分の身の回りを整え、全員で活動する生活環境を美しくするための清掃活動を充実させる指導を行っていく	A	○清掃の時間に集中して取り組める児童が増えてきた。【児ア「特にがんばっている活動は清掃」と回答30%】
								②	1)体力づくり(運動会を含む)や学級遊びを通して、なりたい自分に向かって努力する強い心と仲間を思いやる心の育成を図る	B	○計画的に防災教育や命を守る訓練、SOSの出し方教室等を行うことで、命の大切さを考える機会を定期的に位置付けることができた。【児ア「仲間や自分のいのちを大切にしている」100%】
								②	1)担任、学年主任、主幹教諭、不登校担当、管理職など組織で対応する	A	○□定期的な児童理解や教育相談の場を位置付けたり、校内教育支援センターを整備したりすることで、組織的な対応を大切にすることができたが、不登校を含む不適応児童への支援は今後も必要である。
								②	2)教育相談週間を各学期に実施する	A	
学校運営協議会における主な評価内容										・授業では、学習スタイルの変化に伴い、積極的な子どもの姿を見ることができ、そのことが授業の楽しさにつながってきている。 ・学校において中身の濃い指導がなされており、子ども達の姿に対応していても安心していい。 ・郷土教育については、学んだことを発揮する場を設定していくなど、地域に向けて表現するなどしていきたい。また、子ども達の実態を更に深く探り、ものだけでなく人とのつながりについて、地域の良さを実感させていきたい。 ・ICTの活用では、効率の良さにつながってきているが、人との関わりやそれを扱う教師の認識力の向上にも努めていってほしい。	